

第 64 期 報告書

2007年4月1日~2008年3月31日

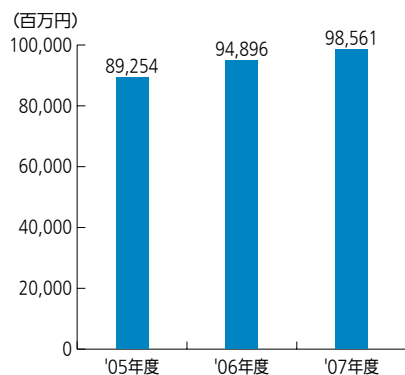


積水化成工業株式会社

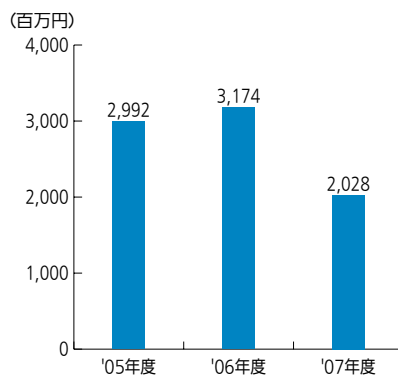
SEKISUI

連結財務ハイライト

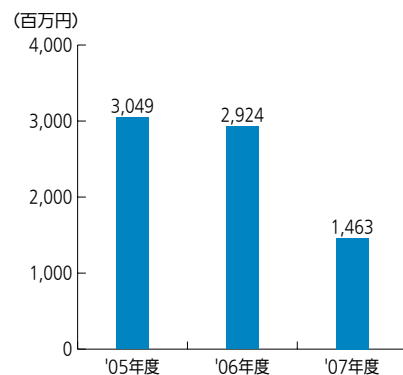
売上高



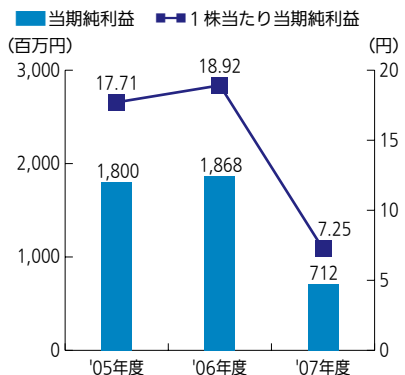
営業利益



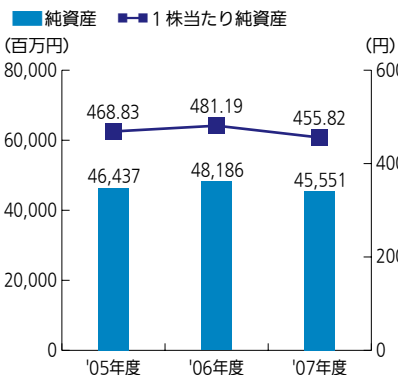
経常利益



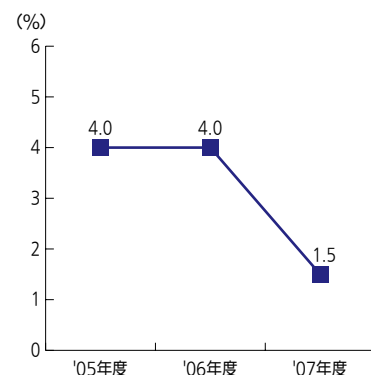
当期純利益・1株当たり当期純利益



純資産・1株当たり純資産



ROE(自己資本当期純利益率)



目次

| | |
|-------------------------|----|
| 連結財務ハイライト | 1 |
| 株主の皆様へ | 2 |
| 2007年度の事業別概況(連結) | 5 |
| 中期経営計画「DASH50-Stage II」 | 7 |
| 高機能品のラインアップ | 9 |
| トピックス | 11 |
| 海外展開 | 13 |

| | |
|---------------|----|
| 発泡スチロールに対する誤解 | 14 |
| 連結財務諸表 | 15 |
| 個別財務諸表 | 18 |
| 株式の状況 | 19 |
| 会社概要 | 20 |
| 株式についてのご案内 | 22 |



代表取締役社長 小野 恵造

中期経営計画 「DASH50－StageⅡ」の 最終年度を迎えて

Q 2007年度連結決算の概要について 説明してください。

原油価格が騰勢を強めた結果、主要原料価格が軒並み一段高となり、収益環境は厳しさを増しました。

このような経営環境のなか、汎用品の価格改定と高機能品の売上増加などにより、連結売上高は若干の増収でした。しかし、水産、食品、建材など汎用品の需要が振るわず販売数量が減少したことや想定を上回る原料・燃料価格の高騰に製品価格転嫁が遅れたことに加え、法令対応の減価償却費増、急速な海外拡販に対応した物流費の増加など一時的な要因のため、連結営業利益、連結経常利益、連結当期純利益が大幅な減益となりました。

配当につきましては、上記の一時的な収益圧迫要因がありました。配当の安定性を考慮しまして、期末配当金として1株につき4円の配当を実施させていただきます。

なお、1株につき4円の間配当を実施しておりますので、当期の年間配当金は1株につき8円となります。

Q 業績向上のための新製品開発やM&Aの状況を教えてください。

新製品開発としましては、植物由来原料であるポリ乳酸樹脂発泡体を開発し、「易成形性」、「複雑な3次元の成形が可能」、「150℃の加熱寸法安定性」などの特長を活かして自動車部材など市場開発を進め、本格販売に向け注力してまいります。

また、当社の高機能樹脂発泡シートを進化させ、液晶テレビや電飾看板などに使用される光学用反射板を開発しました。特長は、「高反射率」、「高剛性」、「熱成形性」などです。特に光源ユニットに合わせて適切な形状に熱成形することで明るさを向上させることが可能です。

一方、M&A実績としては、日東電工株式会社からハイドロゲルの事業を譲り受け、また、株式会社日本メディックスに出資するなど、当社ゲル事業の販路拡大と新規顧客



光学用反射板(無延伸PP系積層シート)

開拓のスピードアップをはかっております。

樹脂事業ではグループ経営の強化のため、広島の成形会社を買収しました。

Q 環境への配慮についての活動状況を教えてください。

当社グループは、主力製品である省資源素材「発泡プラスチック」を通して、社会と地球の持続的発展に貢献していく企業活動を進めております。「環境対応事業の拡大」については、廃家電樹脂や使用済み発泡スチロール緩衝材など回収原料100%使用したリサイクルビーズを用いた成形品「エプスレムERX」が大手家電メーカーの大型液晶テレビ梱包材などで、引き続き売上が拡大しております。

また、前述のようなポリ乳酸樹脂発泡体の開発を推進し拡販に注力してまいります。

ゼロエミッション活動による廃棄物の削減など、環境負荷低減活動にも引き続き取り組んでおります。

Q 高機能発泡製品「ピオセラン」の海外展開の進捗状況を教えてください。

海外展開につきましては、特に自動車、デジタル家電メーカーなどの現地生産拠点に対応した「ピオセラン」のグローバル供給体制の拡大に取り組んでおります。

アジア地域におきましては、台湾、中国（天津）の「ピオセラン」生産拠点から上海、香港の販売会社を通じて販売しており、順調に収益が拡大しております。また、中国華東地域においての需要増加に対応するため、蘇州に現地法人を設立し、「ピオセラン」生産工場の建設に着手しました（2009年春稼働予定）。欧米地域におきましては、自動車・デジタル家電メーカーの北米拠点の需要に対応すべく、2006年11月米国テネシー州に「ピオセラン」生産工場が完成、稼働しております。また、欧州での供給拠点として、オランダに現地法人を設立し、2008年秋稼働を目標に「ピオセラン」生産工場を建設中です。

Q 中期経営計画「DASH50—Stage II」の最終年度の2008年度連結決算の見通しについて教えてください。

2008年度連結業績見通しにつきましては、中期経営計画「DASH50—Stage II」の最終年度目標の連結売上高1,000億円以上、連結経常利益50億円以上を掲げておりますが、不透明感が強まり厳しさを増す環境を勘案し、連結売上高1,040億円、連結営業利益41億円、連結経常利益40億円、連結当期純利益21億5千万円を見込んでおります。

2008年度は中期経営計画「DASH50—Stage II」の最終年度を迎えます。

この2年間で汎用品から高機能品への事業ポートフォリオ変革を進めてまいりましたが、想定以上の原料価格高騰により、安定的な収益確保が果たせずグループ全体の収益拡大の進捗が遅れています。

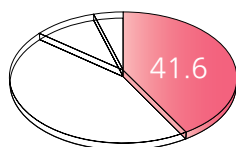
今年度は、汎用品については国内子会社での省エネルギーやコストダウン、価格改定の推進と採算改善を早急に実現し、また、高機能発泡製品、高機能材料については、国内外への拡販に引き続き注力してまいります。

Q 最後に株主の皆様へのメッセージをお願いします。

2008年度は、中期経営計画「DASH50—Stage II」の最終年度になります。2007年度は国内子会社の原料・燃料価格の製品への転嫁遅れや特殊要因により採算が悪化しましたが、今年度はV字回復により目標数字の達成を目指して邁進してまいります。

株主の皆様方におかれましては何卒倍旧のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2007年度の事業別概況（連結）



(売上構成比：%)

樹脂事業

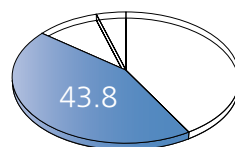
売上高 …… 41,006百万円
売上構成比 …… 41.6%

主力の「エスレンビーズ」は、販売数量は水産、建材の需要の落ち込みで減少したものの、価格改定を進めた結果、売上高は増加しました。一方、国内関連子会社は原料・燃料価格の高騰や需要の低迷の影響を受け、採算改善が進みませんでした。

高機能発泡製品では、「ピオセラン」等を素材とした自動車部材やデジタル家電向け梱包材が国内外で順調に売上を伸ばしましたが、海外での急速な拡販に対応した結果、費用が増加しました。高機能材料では「テクポリマー」が前年並みとなり、「テクノゲル」は売上がやや減少しました。



自動車バンパー芯材(ピオセラン)



(売上構成比：%)

シート事業

売上高 …… 43,173百万円
売上構成比 …… 43.8%

主力の「エスレンシート」は、販売数量は食品関係の需要低迷や容器軽量化の影響を受け減少したものの、価格改定を進めた結果、売上高は増加しました。しかし、ポリスチレン等の原料値上げに対応した製品価格改定の遅れもあり、採算改善が進みませんでした。

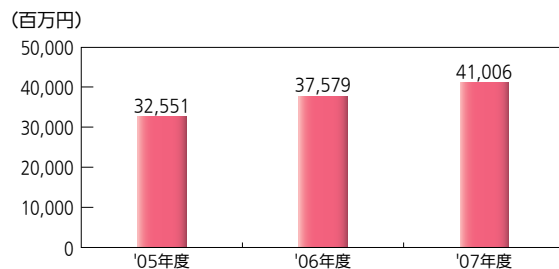
また、関連子会社については、業界競争激化の影響で採算が大きく悪化しました。

一方、デジタル家電の完成品や部品の搬送用緩衝材を中心に「ライトロン」や「セルペット」、「ネオマイクロレン」の売上が増加しました。

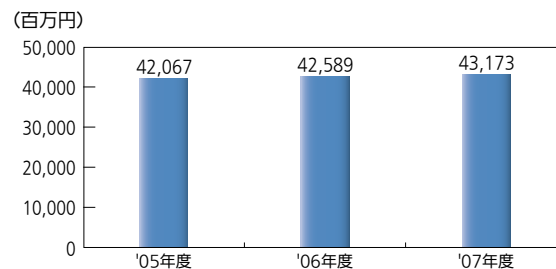


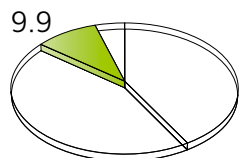
食品トレイ(エスレンシート)

売上高



売上高

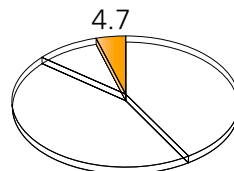




(売上構成比：%)

建 材 事 業

売 上 高 ……9,732百万円
 売上構成比 ……9.9%



(売上構成比：%)

そ の 他 事 業

売 上 高 ……4,648百万円
 売上構成比 ……4.7%

建材分野は、主力の「エスレンフォーム」や「EPSダンマット」が、改正建築基準法の影響による住宅着工件数の落ち込みなどから売上が減少しました。

土木分野は、「EPS土木工法」が大口物件完工などにより堅調に推移しました。



EPS土木工法
(エスレンブロック)

食品関連資材・容器の売上は増加しましたが、ファーストフード向け「パルプ容器関連商品」は、顧客のキャンペーン商品への採用が一巡し、売上が減少しました。

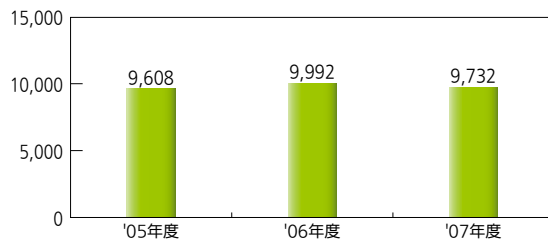
高機能マスクでは拡販を推進していますが、新規顧客の獲得による拡大までは至りませんでした。



高機能マスク
(アパミクロン)

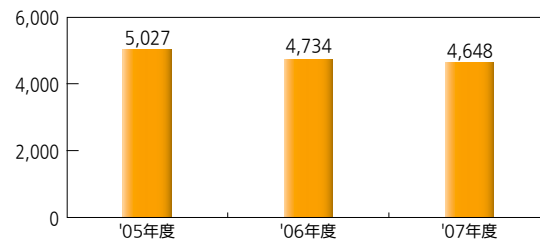
売上高

(百万円)



売上高

(百万円)



中期経営計画「DASH50－Stage II」(2006～2008年度)

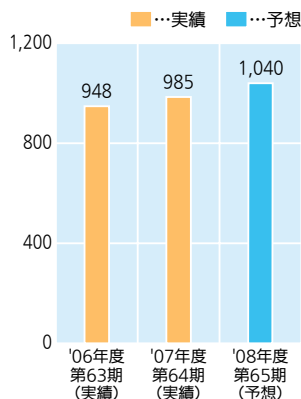
当社グループは、中期経営計画「DASH50－Stage II」の2年目を終えましたが、想定を上回る原料・燃料価格の高騰による影響に加え、法令対応による減価償却費の増加や急速な海外拡販に対応した物流費の増加など、一時的な収益の圧迫要因があったことなどから、利益が大幅に減少しました。

今年度は、中期経営計画「DASH50－Stage II」の最終年度を迎えますが、この2年間で汎用品から高機能品への事業ポートフォリオ変革を進めることで、高機能品の事業拡大は進みました。

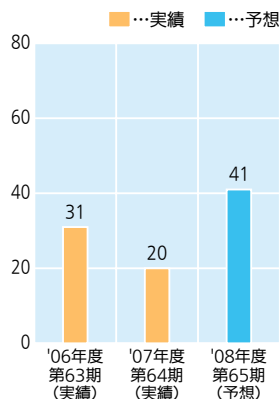
最終年度は、汎用品については国内子会社での省エネルギーやコストダウン、価格改定を推進し採算改善を早急に実現するとともに、引き続き高機能品の事業拡大に邁進します。

業績の実績と予想〈連結〉

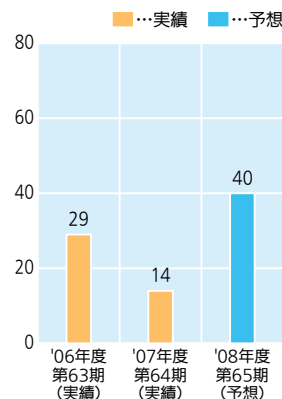
売上高 (単位：億円)



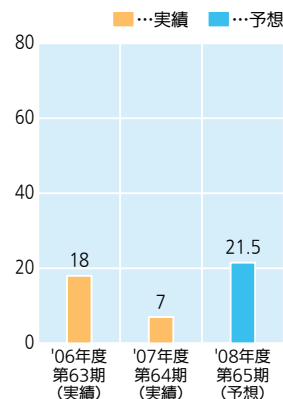
営業利益 (単位：億円)



経常利益 (単位：億円)



当期純利益 (単位：億円)



| | 2006年度(実績) |
|------------------|------------|
| 売上高 | 948億円 |
| 営業利益 | 31億円 |
| 経常利益 | 29億円 |
| 当期純利益 | 18億円 |
| 売上高営業利益率 | 3.3% |
| 総資産経常利益率 (ROA) | 3.1% |
| 自己資本当期純利益率 (ROE) | 4.0% |



| | 2007年度(実績) |
|------------------|------------|
| 売上高 | 985億円 |
| 営業利益 | 20億円 |
| 経常利益 | 14億円 |
| 当期純利益 | 7億円 |
| 売上高営業利益率 | 2.1% |
| 総資産経常利益率 (ROA) | 1.6% |
| 自己資本当期純利益率 (ROE) | 1.5% |



| | 2008年度(予想) |
|------------------|------------|
| 売上高 | 1,040億円 |
| 営業利益 | 41億円 |
| 経常利益 | 40億円 |
| 当期純利益 | 21.5億円 |
| 売上高営業利益率 | 3.9% |
| 総資産経常利益率 (ROA) | 4.3% |
| 自己資本当期純利益率 (ROE) | 4.6% |

…最終年度を迎えて … DASH50－Stage II－3rd …

DASH50－Stage II－3rd (中期経営計画最終年度)

DASH50－Stage II 基本方針

コア事業のイノベーションと開発事業の拡大展開

DASH50－Stage II－3rdコンセプト

Stage II 最終年度目標必達の「ジャンプアップ」計画

DASH50－Stage II－3rd重点課題

- | | |
|--|--|
| 1. 発泡プラスチックのイノベーション ①既存事業の事業力強化 ②高機能発泡品の事業拡大 ③環境対応事業の拡大 | 2. 高機能材料事業の拡大 テクポリマー・テクノゲルの事業拡大 3. 新事業の育成と立上げ 4. グループ経営の強化 5. 内部統制の推進充実化 |
|--|--|

「高機能品の成長による事業ポートフォリオ変革」(連結)

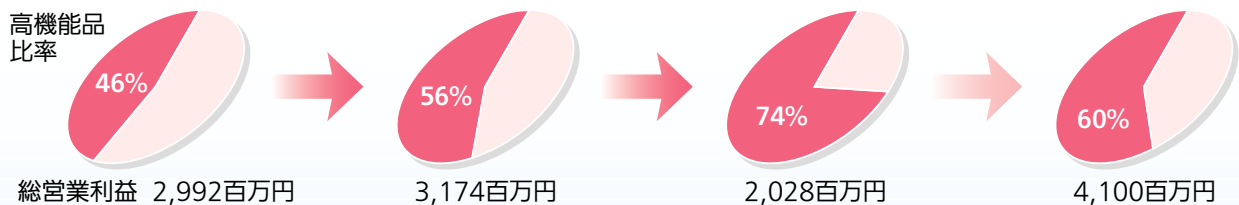
売上高

高機能品
比率



営業利益

高機能品
比率



2007年度は想定を上回る原料・燃料価格の高騰による影響などにより、特に汎用品の利益が大幅に減少し、高機能品の営業利益比率が高まりましたが、2008年度は汎用品の利益回復とともに高機能品の拡販を進めることで、全体利益の拡大をはかってまいります。

高機能品のラインアップ

中期経営計画「DASH50-Stage II」の最終年度目標達成のためには、汎用品で採算が悪化している子会社での省エネルギーやコストダウン、価格改定を推進し採算改善を行うことが必要になってきます。一方、高機能発泡製品の「ピオセラン」や高機能材料の「テクポリマー」、「テクノゲル」の国内外での売上拡大が必須です。

このページでは、特に各事業部が注力している、付加価値の高い高機能品を数例紹介します。

「ピオセラン」(ポリスチレン・ポリオレフィン複合樹脂発泡体)

「ピオセラン」は自動車部材では、乗員・歩行者保護や車体の軽量化を目的として採用車種数が順調に増えており、海外での供給も増加しています。

家電関係では、主に薄型テレビのパネルの拠点間輸送梱包用や製品梱包などで本格的な採用が始まり、国内・海外で急激に数量を増やしています。



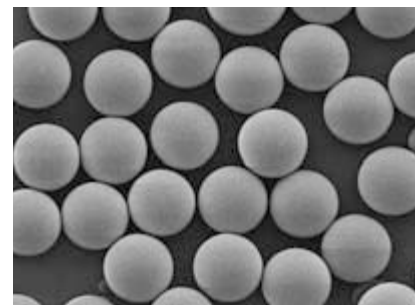
下肢部衝撃吸収材
(ピオセラン)

「テクポリマー」(映り込み防止用途向け)

液晶ディスプレイの表面に使用され、外光の映り込みを防止し、ディスプレイを見やすくします。

特長としては、粒子径のそろった「テクポリマー」を使用することにより、均一な光散乱効果で映り込みを防止します。

また、光透過性に優れているため、ディスプレイの映像を鮮明に見ることができます。



1,000倍拡大写真
映り込み防止用光拡散剤(テクポリマー)

「ウレタンゲル」(心電図検査用電極向け)

日東電工株式会社から譲り受けた、ハイドロゲル(親水性高分子ゲル)事業の主要製品であるウレタン系ハイドロゲルを用いた使い捨て心電図検査用電極です。

同製品は、国内医療機関において高シェアを有する電極であり、当社知名度アップに大きく寄与するものと考えます。

今後、このウレタン系ハイドロゲルを用いた製品を、医療分野のみならず健康・美容分野にも水平展開していきます。

2008年6月、当社茨城美浦工場(茨城県美浦村)において、日東電工株式会社からの譲受設備の稼働体制を整備し、量産を開始します。

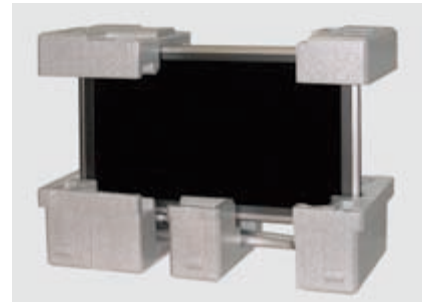


使い捨て心電図検査用電極(ウレタンゲル)

「エプスレムERX」(リサイクルビーズを用いた成形品)

「エプスレムERX」は、使用済みの発泡スチロールだけでなく、テレビや冷蔵庫等の廃家電樹脂(ポリスチレン)など回収原料100%使用したリサイクルビーズを用いた成形品です。

家電製品の包装材として使用されており、クローズドリサイクルシステム構築に貢献しています。

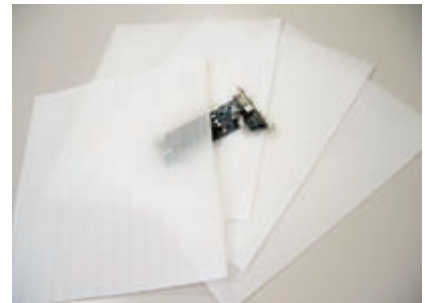


リサイクル家電包装材(エプスレムERX)

「ライトロンCE」(無架橋発泡ポリエチレンシート)

「ライトロンCE」は、持続帯電防止機能が付与されており、静電気によるほこりやゴミの付着を防止できることから、主に薄型テレビのガラス基板の輸送用包装材として使用が増加しています。

また、薄型テレビの市場は今後の伸長が期待でき、ガラス基板の大型化(第8世代)への対応や海外のガラス基板メーカー・薄型テレビメーカーへの拡販を進めていきます。



無架橋発泡ポリエチレンシート
(ライトロンCE)

トピックス

「日東電工株式会社の ハイドロゲル事業を譲り受け」

当社は、日東電工株式会社からハイドロゲル事業を2008年4月に譲り受けました。

今回の買収は、ハイドロゲル（当社製品名：テクノゲル）事業を含む高機能材料事業の拡大のスピードアップをはかるのが狙いです。

また、当社が既に保有する独自のアクリル系ハイドロゲル技術に日東電工株式会社の技術を付加し、同社の持つ市場、生産技術などを最大限活用します。これにより、医療、健康、化粧品用途などへのヘルスケア領域でより一層の事業拡大をはかり、2010年度のハイドロゲル事業売上高20億円を目指します。



低周波治療器用
電極パッド



「植物由来樹脂を用いた ビーズ法樹脂発泡体の開発に成功」

当社は、高結晶性ポリ乳酸樹脂を使って、ビーズ法樹脂発泡体を開発しました。

ポリ乳酸樹脂は、トウモロコシなどの植物を原料としていますので、環境負荷が低い材料として注目されています。このたび当社で開発しましたビーズ法樹脂発泡体は、150℃の加熱寸法安定性を有する一方で、85～95℃の低温で成形可能なため省エネルギー成形が可能であり、また3次元などの複雑な成形も可能です。

この特長を活かして、自動車部材や建築資材等の構造部材用途などから需要開拓を開始しました。

現在、当社の総合研究所内のパイロットプラントで試作品を製作し市場評価を行っており、市場開発状況を見て新規プラントの導入を検討していきます。

ポリ乳酸樹脂発泡ビーズ



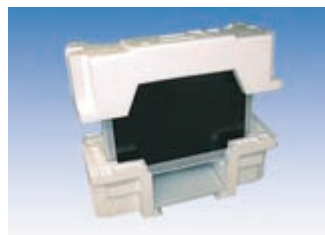
ポリ乳酸樹脂を使った
成形サンプル

「中国・蘇州に ピオセラン生産会社を設立」

(新会社名…積水化成品(蘇州)科技有限公司)

「ピオセラン」の生産会社を中国・蘇州に設立することを決定しました。「ピオセラン」をグローバル製品と位置づけ、すでに欧米、台湾、中国（天津）に生産会社を設立しております。中国においては天津に次いで2拠点目となり、成長著しい中国市場への供給強化を進めております。全世界の「ピオセラン」生産拠点としては、6拠点目となります。

2009年春に稼動予定で、生産能力は年間1,200トンを見込んでおります。また、「ピオセラン」の他に高機能品の「セルペット」「ネオマイクロレン」、環境関連商品「エプスレムERX」の生産も視野に入れて拡大をはかっていきます。



液晶テレビ用緩衝包装材
(ピオセラン)



予備発泡粒
(ピオセラン)

「韓国にピオセランを中心とした 高機能品の販売会社を設立」

(新会社名…積友商事株式会社)

「ピオセラン」の韓国での事業強化を目的としてソウル市に販売会社を合併で設立しました。「ピオセラン」の販売を中心に展開し、その後、他の高機能品（セルペット、ネオマイクロレン等）の販売拡大をはかっていきます。

海外販売会社設立は、香港、タイ（2社）、上海、インドネシアに続いて6社目となります。

合併先は同友油空圧株式会社（本社：ソウル市）で、当社の出資比率は60%です。

売上目標は、2008年度に2億円、2011年度に20億円を目指しております。



液晶モジュール搬送用BOX(ピオセラン)

海外展開

高機能発泡製品「ピオセラン」の事業拡大 → 自動車・デジタル家電業界をターゲット

…… 2010年度 年産16,000トン体制を目指す ……



※上記の拠点はピオセランの生産、販売拠点を表示しています。

積水化成成品グループ海外事業拠点 ★印は生産拠点 ★印は販売拠点

全額出資

中国

- ★天津積水化成成品有限公司
(ピオセラン原料の製造・販売)
- ★積水化成成品(蘇州)科技有限公司
※2009年春稼働予定
(ピオセラン原料の製造・販売)
- ★積水化成成品(上海)国際貿易有限公司
(プラスチック原料・成形品の販売)

台湾

- ★原聚化学工業股份有限公司
(ピオセラン原料の製造・販売)

香港

- ★積水塑膠(香港)有限公司
(プラスチック原料・成形品の販売)

米国

- ★Sekisui Plastics U.S.A., Inc.
(ピオセラン原料の製造・販売)

オランダ

- ★Sekisui Plastics Europe B.V.
※2008年秋稼働予定
(ピオセラン原料の製造・販売)

共同出資

インドネシア

- ★PT.Sekisui Summitpack Indonesia
(発泡プラスチック成形品の販売)

韓国

- ★積友商事株式会社
(ピオセランを中心とした高機能品の販売)

台湾

- ★台湾積水迅達股份有限公司
※2008年5月設立
(ピオセラン原料と発泡プラスチック成形品の販売)

シンガポール

- ★SEKISUI PLASTICS S.E.A.PTE.LTD.
(EPSビーズの製造・販売)

タイ

- ★ESLEN THAI CO.,LTD.
(EPSの成形加工)
- ★THAI FOAM (2539)CO., LTD.
(EPSの成形加工)
- ★Sekisui Plastics Industrial Materials(Thailand) CO.,LTD.
(EPSの成形品の販売)
- ★Sekisui Plastics Creative Design(Thailand) CO.,LTD.
(梱包資材の設計)

発泡スチロールに対する誤解（PSP vs 紙）

地球温暖化の原因のCO₂(二酸化炭素)発生量は紙より少ない！

PSP（発泡スチレンシート）製のトレーと紙製のトレーを燃やして、トレー1枚当たりで比較してみると、下記の表のようにCO₂(二酸化炭素)の発生量は、PSP製トレーのほうが紙製のトレーに比べて約3分の1しか発生しません。

また、発熱量、残灰量、一酸化炭素についても、PSP製トレーのほうが環境面での優位性を示しています。

同じ大きさのトレー（135mm×135mm）を燃やした時に発生するトレー1枚当たりの熱量、残灰量、ガス量の一例

| トレー | 一枚当たり重量 (g) | 発熱量 (cal) | 残灰量 (g) | 二酸化炭素 (mg) | 一酸化炭素 (mg) | 塩化水素 (mg) | 硫黄酸化物 (mg) | 窒素酸化物 (mg) |
|-----|-------------|-----------|---------|------------|------------|-----------|------------|------------|
| PSP | 3.3 | 34,551 | 0.04 | 5,775 | 561 | 検出せず※ | 検出せず※ | 検出せず※ |
| 古紙 | 8.3 | 42,247 | 0.37 | 13,280 | 1,162 | 検出せず※ | 5.81 | 検出せず※ |
| 紙 | 10.1 | 39,895 | 0.75 | 17,170 | 1,515 | 検出せず※ | 10.10 | 検出せず※ |

※は検出限界（0.1mg/g）以下

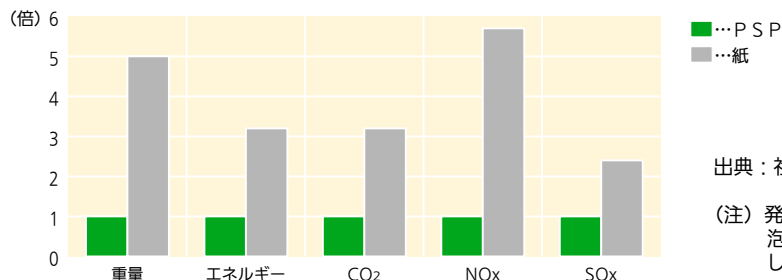
出典：高分子素材センター

PSP（発泡スチレンシート）製トレーの総エネルギーが紙製トレーより少ない！

原材料の採取から製品の廃棄までの全過程で必要とされるエネルギーと発生する環境負荷を総合的、客観的に評価した結果、**PSP製のトレーは、紙製のトレーに比べて環境に対する負荷が少ない**ことが下記のLCA（環境影響評価）のデータグラフから証明されます。

包装材料の環境影響

（下記のグラフは、PSPトレー1に対して紙製トレーの環境負荷を表示しています）



出典：社団法人プラスチック処理促進協会

（注）発泡スチレンシート工業会発行「ご存じですか発泡スチロール食品容器」より表、グラフ等を転載しています。

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

| 期 別 科 目 | 第64期 (2008年3月31日現在) | 第63期 (2007年3月31日現在) |
|------------|------------------------|------------------------|
| | 金 額 | 金 額 |
| (資産の部) | | |
| 流動資産 | 40,169 | 41,692 |
| 現金及び預金 | 5,689 | 6,328 |
| 受取手形及び売掛金 | 24,199 | 25,272 |
| たな卸資産 | 8,262 | 8,183 |
| その他 | 2,017 | 1,908 |
| 固定資産 | 51,173 | 53,176 |
| 有形固定資産 | 39,597 | 39,101 |
| 建物及び構築物 | 13,091 | 13,057 |
| 機械装置及び運搬具 | 9,944 | 9,696 |
| 土地 | 14,382 | 14,352 |
| その他 | 2,179 | 1,994 |
| 無形固定資産 | 624 | 648 |
| 投資その他の資産 | 10,951 | 13,426 |
| 資産合計 | 91,342 | 94,869 |

ポイント

- 受取手形及び売掛金の減少などにより、流動資産が15億2千3百万円減少しました。
- 投資有価証券の減少などにより、固定資産が20億3百万円減少しました。

| 期 別 科 目 | 第64期 (2008年3月31日現在) | 第63期 (2007年3月31日現在) |
|--------------|------------------------|------------------------|
| | 金 額 | 金 額 |
| (負債の部) | | |
| 流動負債 | 34,072 | 33,272 |
| 支払手形及び買掛金 | 16,021 | 16,840 |
| 短期借入金 | 7,396 | 5,498 |
| その他 | 10,654 | 10,933 |
| 固定負債 | 11,719 | 13,410 |
| 長期借入金 | 4,800 | 5,800 |
| 退職給付引当金 | 3,021 | 3,644 |
| その他 | 3,897 | 3,965 |
| 負債合計 | 45,791 | 46,682 |
| (純資産の部) | | |
| 株主資本 | 42,394 | 42,778 |
| 資本金 | 16,533 | 16,533 |
| 資本剰余金 | 18,541 | 18,541 |
| 利益剰余金 | 8,037 | 8,243 |
| 自己株式 | △717 | △539 |
| 評価・換算差額等 | 2,258 | 4,602 |
| その他有価証券評価差額金 | 1,389 | 3,725 |
| 土地再評価差額金 | 914 | 914 |
| 為替換算調整勘定 | △45 | △37 |
| 少数株主持分 | 899 | 806 |
| 純資産合計 | 45,551 | 48,186 |
| 負債・純資産合計 | 91,342 | 94,869 |

ポイント

- 純資産は、その他有価証券評価差額金の減少などにより、45億5千1百万円となり、自己資本比率は48.9%となりました。

■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

| 期 別 科 目 | 第64期 (自2007年4月1日 至2008年3月31日) | 第63期 (自2006年4月1日 至2007年3月31日) |
|--------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| | 金額 | 金額 |
| 売 上 高 | 98,561 | 94,896 |
| 売 上 原 価 | 78,581 | 73,969 |
| 売 上 総 利 益 | 19,979 | 20,926 |
| 販売費及び一般管理費 | 17,950 | 17,752 |
| 営 業 利 益 | 2,028 | 3,174 |
| 営業外収益 | 436 | 399 |
| 営業外費用 | 1,001 | 648 |
| 経 常 利 益 | 1,463 | 2,924 |
| 特別利益 | 614 | 687 |
| 特別損失 | 84 | 49 |
| 税金等調整前当期純利益 | 1,993 | 3,563 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 763 | 1,197 |
| 法人税等調整額 | 418 | 406 |
| 少数株主利益 | 99 | 90 |
| 当 期 純 利 益 | 712 | 1,868 |

ポイント

- 汎用品の価格改定と高機能品の売上増加などにより、売上高は前期比3.9%の増収となりました。
- 水産、食品、建材など汎用品の需要が振るわず販売数量が減少したことなどから、営業利益は前期比36.1%の減益となりました。
- たな卸資産や固定資産の廃棄・除却を進めたことなどにより、経常利益は前期比50.0%の減益となりました。
- 当期純利益については、61.9%の減益となりました。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| 期 別 科 目 | 第64期 (自2007年4月1日 至2008年3月31日) | 第63期 (自2006年4月1日 至2007年3月31日) |
|--------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| | 金額 | 金額 |
| 営業活動による キャッシュ・フロー | 4,099 | 8,210 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー | △ 4,827 | △ 5,397 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー | △ 210 | △ 2,120 |
| 現金及び現金同等物に 係る換算差額 | 16 | 46 |
| 現金及び現金同等物の 増 加 額 | △ 922 | 739 |
| 現金及び現金同等物の 期 首 残 高 | 6,089 | 5,208 |
| 新規連結に伴う現金及び 現金同等物の増加額 | 356 | 142 |
| 現金及び現金同等物の 期 末 残 高 | 5,523 | 6,089 |

ポイント

- 営業活動により得られた資金は、税金等調整前当期純利益が減少したことや法人税等の支払額の増加などにより、前期に比べ41億1千1百万円減少しました。
- 投資活動に使用された資金は、有形固定資産の取得による支出が減少したことなどにより、前期に比べ5億6千9百万円減少しました。
- 財務活動に使用された資金は、長期借入による収入が増加したことなどにより、前期に比べ19億1千万円減少しました。

連結財務諸表

連結株主資本等変動計算書

第64期（自2007年4月1日 至2008年3月31日）

（単位：百万円）

| | 株 主 資 本 | | | | | 評 価 ・ 換 算 差 額 等 | | | | 少 株 持 数 主 分 | 純 資 産 計 合 |
|---------------------------|---------|-----------|-----------|---------|-------------|-------------------------|---------------|-----------------|---------------------|-------------|-----------|
| | 資 本 金 | 資 本 剰 余 金 | 利 益 剰 余 金 | 自 己 株 式 | 株 主 資 本 合 計 | そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金 | 土 地 再 評 価 差 額 | 為 替 換 算 調 整 勘 定 | 評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計 | | |
| 2007年3月31日残高 | 16,533 | 18,541 | 8,243 | △539 | 42,778 | 3,725 | 914 | △37 | 4,602 | 806 | 48,186 |
| 連結会計年度中の変動額 | | | | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | △885 | | △885 | | | | | | △885 |
| 当期純利益 | | | 712 | | 712 | | | | | | 712 |
| 自己株式の取得 | | | | △178 | △178 | | | | | | △178 |
| 自己株式の処分 | | △0 | | 0 | 0 | | | | | | 0 |
| 子会社増加減少高 | | | △32 | | △32 | | | | | | △32 |
| その他減少高 | | | △0 | | △0 | | | | | | △0 |
| 株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額) | | | | | | △2,336 | — | △7 | △2,344 | 93 | △2,251 |
| 連結会計年度中の変動額合計 | — | △0 | △206 | △178 | △384 | △2,336 | — | △7 | △2,344 | 93 | △2,635 |
| 2008年3月31日残高 | 16,533 | 18,541 | 8,037 | △717 | 42,394 | 1,389 | 914 | △45 | 2,258 | 899 | 45,551 |

ポイント

- 当期の自己株式の取得につきましては、2007年9月に122千株、2007年11月に378千株を取得しました。

個別財務諸表

貸借対照表

第64期（2008年3月31日現在）

| 科 目 | 金 額 |
|-------------|---------------|
| （資産の部） | |
| 流動資産 | 41,421 |
| 現金及び預金 | 2,928 |
| 受取手形 | 5,427 |
| 売掛金 | 15,023 |
| たな卸資産 | 4,899 |
| その他 | 13,143 |
| 固定資産 | 43,613 |
| 有形固定資産 | 28,256 |
| 建物及び構築物 | 10,071 |
| 機械装置及び運搬具 | 7,171 |
| 土地 | 9,665 |
| その他 | 1,349 |
| 無形固定資産 | 321 |
| 投資その他の資産 | 15,034 |
| 資産合計 | 85,035 |

(単位：百万円)

| 科 目 | 金 額 |
|-----------------|---------------|
| （負債の部） | |
| 流動負債 | 32,770 |
| 支払手形 | 708 |
| 買掛金 | 15,438 |
| 短期借入金 | 7,200 |
| その他 | 9,424 |
| 固定負債 | 8,915 |
| 長期借入金 | 4,800 |
| 退職給付引当金 | 1,703 |
| その他 | 2,412 |
| 負債合計 | 41,686 |
| （純資産の部） | |
| 株主資本 | 41,045 |
| 資本金 | 16,533 |
| 資本剰余金 | 18,541 |
| 利益剰余金 | 6,681 |
| 自己株式 | △709 |
| 評価・換算差額等 | 2,302 |
| その他有価証券評価差額金 | 1,388 |
| 土地再評価差額金 | 914 |
| 純資産合計 | 43,348 |
| 負債・純資産合計 | 85,035 |

損益計算書

第64期（自2007年4月1日 至2008年3月31日）（単位：百万円）

| 科 目 | 金 額 |
|--------------|--------|
| 売 上 高 | 74,626 |
| 売 上 原 価 | 60,242 |
| 売 上 総 利 益 | 14,384 |
| 販売費及び一般管理費 | 12,137 |
| 営 業 利 益 | 2,246 |
| 営業外収益 | 640 |
| 営業外費用 | 1,029 |
| 経 常 利 益 | 1,857 |
| 特別利益 | 601 |
| 特別損失 | 739 |
| 税引前当期純利益 | 1,719 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 524 |
| 法人税等調整額 | 472 |
| 当 期 純 利 益 | 722 |

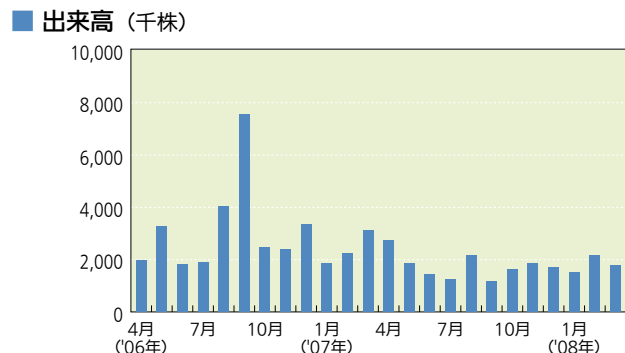
株式の状況 (2008年3月31日現在)

| | |
|----------|--------------|
| 発行可能株式総数 | 249,502,000株 |
| 発行済株式の総数 | 99,976,218株 |
| 株主数 | 5,720名 |

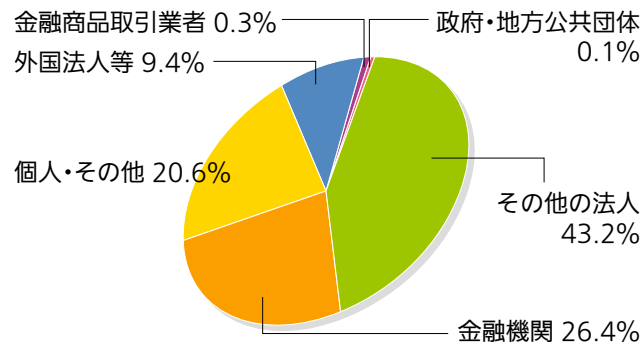
大株主 (上位10名)

| 株主名 | 所有株式数 千株 | 所有比率 % |
|---------------|-------------|-----------|
| 積水化学工業株式会社 | 23,337 | 23.81 |
| 第一生命保険相互会社 | 6,063 | 6.18 |
| 大同生命保険株式会社 | 5,672 | 5.78 |
| 株式会社エフピコ | 2,697 | 2.75 |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行 | 2,655 | 2.70 |
| 積水化成品従業員持株会 | 2,597 | 2.65 |
| 旭化成ケミカルズ株式会社 | 2,500 | 2.55 |
| 住友化学株式会社 | 2,500 | 2.55 |
| 積水樹脂株式会社 | 2,281 | 2.32 |
| 電気化学工業株式会社 | 2,000 | 2.04 |

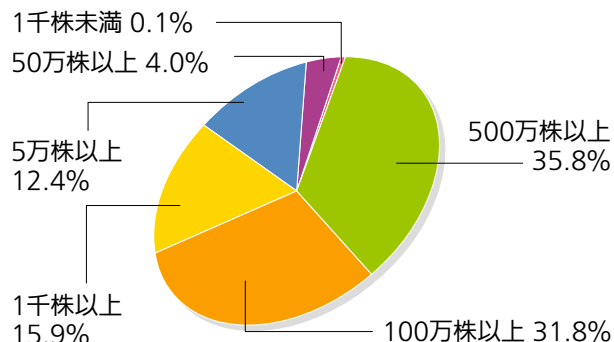
株価・出来高の推移 (東京証券取引所 市場第1部)



所有者別分布状況 (所有比率)



所有株数別分布状況 (所有比率)



(注) 所有比率は、自己株式 (1,984千株) を控除して計算しております。

会社概要

連結子会社 (2008年3月31日現在) <29社>

湘南積水工業株式会社
 株式会社積水化成山口
 技研化成株式会社
 株式会社積水化成北海道
 株式会社フォーメック
 ホクエイ化工株式会社
 笠原化成株式会社
 株式会社積水化成関東
 株式会社積水化成佐倉
 株式会社積水化成天理
 天理化工株式会社
 株式会社積水化成滋賀
 株式会社セキホー四国
 株式会社セキホー関西
 ワコー産業株式会社
 セキスイウレタン加工株式会社
 沖縄樹脂化学工業株式会社
 株式会社積水化成大分
 三積化工株式会社
 三積エンジニアリング株式会社
 積水化成開発株式会社
 九州エスレン工事株式会社
 積水塑膠(香港)有限公司
 SEKISUI PLASTICS S.E.A.PTE.LTD.
 Sekisui Plastics U.S.A., Inc.
 原聚化学工業股份有限公司
 天津積水化成有限公司
 積水化成(上海)国際貿易有限公司
 Sekisui Plastics Industrial Materials(Thailand)CO.,LTD.

会社の概要 (2008年3月31日現在)

商号 積水化成工業株式会社
 (英文商号) (SEKISUI PLASTICS CO.,LTD.)

本社 大阪市北区西天満2丁目4番4号

設立年月日 1959年10月1日

資本金 16,533,476,176円

従業員数 426名

営業品目 樹脂部門

エスレンビーズ、ピオセラン、テクポリマー、
 テクノゲル、自動車関連資材、産業包装材、
 その他樹脂関連商品

シート部門

エスレンシート、ラミネート、エスレンウッ
 ド、ライトロン、その他シート関連商品

建材部門

エスレンフォーム、エスレンネダマット、
 ティエスサンド、エスレンボイド、エスレン
 ブロック (EPS 土工法)、TYK フォーム、
 その他建材関連商品

その他部門

物流資材関連商品、パルプ容器関連商品、
 その他商品

ホームページ <http://www.sekisuiplastics.co.jp>
 アドレス

会社概要

役員 (2008年6月20日現在)

取締役

| | |
|---------|-----------|
| 代表取締役社長 | 小野 恵 造 |
| 専務取締役 | 東 克 信 |
| 常務取締役 | 中 屋 一 徳 |
| 常務取締役 | 深 尾 茂 博 |
| 常務取締役 | 佐 野 芳 秀 |
| 常務取締役 | 西 川 誠 治 |
| 常務取締役 | 奈 良 健 一 郎 |
| 取締役 | 歳 谷 耕 二 |
| 取締役 | 辻 村 博 志 |
| 取締役 | 資 延 利 夫 |
| 取締役 | 佐々木 正 朋 |
| 取締役 | 柏 原 正 人 |

監査役

| | |
|-------|---------|
| 常勤監査役 | 川 部 道 雄 |
| 常勤監査役 | 佐 藤 幹 夫 |
| 監査役 | 満 生 英 二 |
| 監査役 | 今 野 照 雄 |

事業所所在地

| | |
|-----------|---|
| 本 社 | 大阪市北区西天満 2丁目4番4号(堂島関電ビル) TEL 06 (6365) 3014 ㊦530-8565 |
| 東 京 本 部 | 東京都新宿区西新宿 2丁目7番1号(新宿第一生命ビル) TEL 03 (3347) 9615 ㊦163-0727 |
| 東 北 支 店 | 仙台市青葉区国分町 3丁目1番1号(仙台第一生命ビル) TEL 022 (262) 4175 ㊦980-0803 |
| 中 部 支 店 | 名古屋市中区栄 3丁目1番1号(広小路第一生命ビル) TEL 052 (269) 3595 ㊦460-0008 |
| 九 州 支 店 | 福岡市中央区天神 4丁目1番7号(第3明星ビル) TEL 092 (771) 3766 ㊦810-0001 |
| 関 東 工 場 | 茨城県古河市下辺見1336番地 2 TEL 0280 (32) 2411 ㊦306-0235 |
| 茨城下館工場 | 茨城県筑西市小川1908番地 TEL 0296 (28) 8211 ㊦308-0857 |
| 茨城境工場 | 茨城県猿島郡境町大字塚崎1346番地 1 TEL 0280 (86) 7333 ㊦306-0405 |
| 茨城美浦工場 | 茨城県稲敷郡美浦村大字木原1876番地22 TEL 0298 (85) 1251 ㊦300-0421 |
| 滋 賀 工 場 | 滋賀県甲賀市水口町泉1259番地 TEL 0748 (62) 8701 ㊦528-0056 |
| 天 理 工 場 | 奈良県天理市森本町670番地 TEL 0743 (65) 0501 ㊦632-8505 |
| 岡 山 工 場 | 岡山県笠岡市用之江170番地 1 TEL 0865 (66) 4301 ㊦714-0066 |
| 大 分 工 場 | 大分県中津市大字犬丸字秋満150番地 2 TEL 0979 (32) 6851 ㊦879-0105 |
| 総 合 研 究 所 | 奈良県天理市森本町670番地 TEL 0743 (65) 0504 ㊦632-8505 |

※本報告書の記載金額および株式数については、表示単位未満の端数を切り捨てて表示しています。

株式についてのご案内

■ 単元未満株式の買取請求および買増請求について

当社株式の証券取引所における取引単位は1,000株ですから、1,000株未満の株式（単元未満株式といいます）につきましては、証券会社を通じて証券市場で売買することができません。

こうした単元未満株式につきましては、当社に対して買い取るよう請求（買取請求といいます）する、もしくは1,000株に不足する株式を当社から購入して1,000株にまとめるよう請求（買増請求といいます）することができます。

■ 『単元未満株式』の整理をご検討の株主さまは是非ご利用ください。

■ 単元未満株式の買取請求

■ 必要書類等

- 「単元未満株式買取請求書」
- 「株券」（株券が発行されていない場合は不要です）
- 「届出の印鑑」

■ 手続方法

単元未満株式の買い取りをご希望の株主様は、「単元未満株式買取請求書」に当社へのお届出の印鑑を押印のうえ、株券（株券が発行されていない場合は不要です）を添えて、株主名簿管理人にご提出ください。

■ 単元未満株式の買増請求

■ 必要書類等

- 「単元未満株式買増請求書」
- 「株券」（株券が発行されていない場合は不要です）
- 「買増概算金」

■ 手続方法

単元未満株式の買い増しをご希望の株主様は、「単元未満株式買増請求書」に株券（株券が発行されていない場合は不要です）を添えて、株主名簿管理人にご提出いただくとともに、買い増しに必要な買増概算金をお支払いいただきます。

(注) 詳細については、次ページの「株主メモ」に記載しています株主名簿管理人取扱場所までお問合せください。

なお、証券保管振替制度をご利用の実質株主様は、お取引先の証券会社等を通じてご請求ください。

経営理念

われわれは、人間尊重と相互信頼を基本に、
全員の英知と情熱を結集し、
“新しい幸せをめざして”
不断の前進をつげます。

株主メモ

| | |
|--------------------|--|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日 |
| 定時株主総会 | 毎年6月 |
| 基準日 | 定時株主総会 毎年3月31日、期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日 |
| 株主名簿管理人 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 |
| 同事務取扱場所 (お問合せ先) | 〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話：0120-094-777 (通話料無料) |
| 同取次所 | 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店 野村證券株式会社 全国本支店 ※株式関係のお手続用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行 の電話およびインターネットでも24時間承っております。 電話 (通話料無料) 0120-244-479 (本店証券代行部) 0120-684-479 (大阪証券代行部) インターネットホームページ http://www.tr.mufg.jp/daikou/ |
| 公告の方法 | 電子公告 公告の内容は、当社ホームページにおいてご覧ください。 http://www.sekisuiplastics.co.jp/koukoku/ |
| 上場証券取引所 | 東京・大阪両証券取引所市場第1部 |
| ※株主様のお問合せ先 | 積水化成成品工業株式会社 総務部 電話06-6365-3014 |